

中山道まめ知識

幾多の軍の攻撃を受けて
数奇な運命をたどった本庄城

本庄実忠が築いた本庄城は、永禄10年(1567)に小田原北条氏の攻略にあい、天正18年(1590)には豊臣方の攻撃を受け落城。その後、徳川方の小笠原氏が入城したが、二代目信之の代で廃城に。数奇な運命をたどった城なのだ。

13 ほんじょうしつれき
みんぞくしりょうかん

本庄市立歴史民俗資料館
本庄市中央1丁目

建物は明治16年(1883)建築の旧本庄警察署を利用したもの。瓦葺きの2階建で外壁には漆喰塗り、ペランダの柱には精巧なルネッサンス彫刻がほどこされている。県の文化財に指定された、レトロで美しい洋風建築物。




本庄市



11 しるやまいなり
城山福荷
本庄市本庄3丁目

城址奥にそびえる大ケヤキは高さ約63m。弘治2年(1556)の本庄城築城の際に献木されたものと伝えられる。県の天然記念物に指定。

資料館の利用案内

本庄市立歴史民俗資料館 ●本庄市中央1丁目2番3号 ●TEL 0495-22-3243
●開館時間 9:00~16:30 ●入館料 無料
●休館日 日曜日・祝日・年末年始・毎月末日

上里町郷土資料館 ●児玉郡上里町七本木67 ●TEL 0495-34-0455
●開館時間 10:00~18:00 ●入館料 無料
●休館日 月曜日・祝日・年末年始・毎月末日(月曜日が祝日の場合は翌日も休館)



14 田村本陣の門

本庄市中央1丁目

本庄宿北本陣にあったこの重厚な門は、市の文化財に指定され、現在は歴史民俗資料館の敷地内に移されている。



15 安養院(普寛堂)

本庄市中央3丁目

山門は立派な楼門。背後にある普寛堂には、御嶽講の祖といわれる木食普寛上人の墓がある。木曾御嶽山の信仰登山は今も続く。



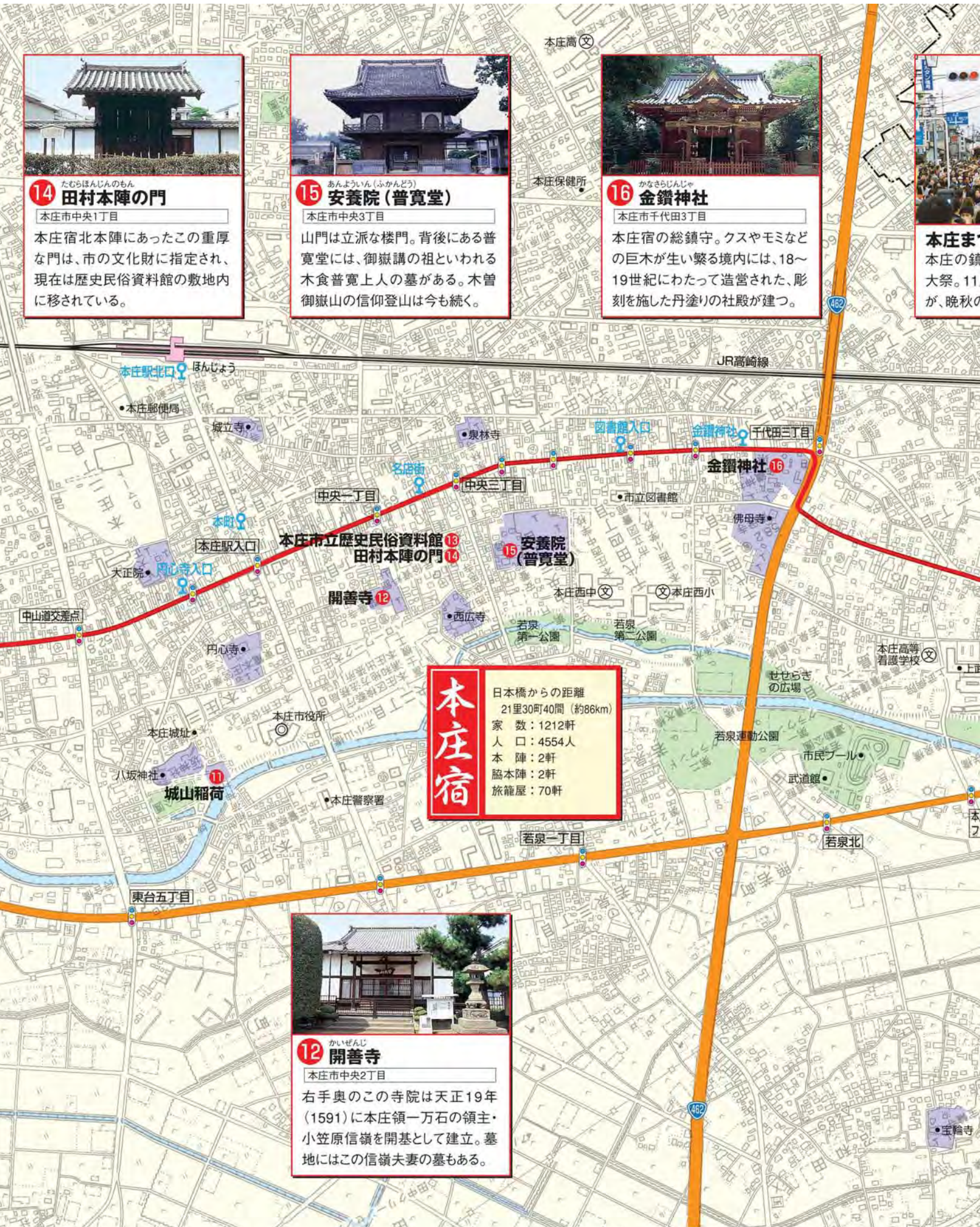
16 金鑽神社

本庄市千代田3丁目

本庄宿の総鎮守。クスやモミなどの巨木が生い繁る境内には、18~19世紀にわたって造営された、彫刻を施した丹塗りの社殿が建つ。



本庄宿の本庄の鎮守大祭。11月が、晩秋の



本庄宿

日本橋からの距離
21里30町40間 (約86km)
家数：1212軒
人口：4554人
本陣：2軒
脇本陣：2軒
旅籠屋：70軒



12 開善寺

本庄市中央2丁目

右手奥のこの寺院は天正19年(1591)に本庄領一万石の領主・小笠原信嶺を開基として建立。墓地にはこの信嶺夫妻の墓もある。



つり
 守様として親しまれている、金鎖神社の
 月初旬の2日間、絢爛豪華な10基の山車
 の中山道を優雅に巡行。



19 上里町郷土資料館
 上里町の歴史を紹介し、中山道の街並を図面や模型で再現。隣接する出土文化財展示室では、埋蔵物の整理状況が確認できる。

中山道まめ知識
関東有数の規模を誇り 繊維産業で栄えた本庄宿
 慶長17年(1612)の本庄城廃城に前後して、中山道の宿場が制定され城下町は新たに宿駅・本庄宿として発展していく。また、明治以降は全国有数のマユの集散地となり、養蚕の町・本庄としてさらなる発展をとげたのである。



17 泪橋跡碑
 橋の跡と石碑、庚申塔が建つ。現在川はないが、石碑にはかつてこの地区の人々が伝馬役(助郷)に苦しみ涙を流した由来が記される。



18 浅間山古墳
 木がうっそうと繁る小穴式石室を持つ円墳。くぐり登ると、古墳の石室の扉がひっそりと建っている。

資料館
明治4年の
で展示。また、
管理センター
も見られる。



23 いちりつかあと
一里塚跡
児玉郡上里町勅使河原
勅使河原(てしがわら)に入ると右
手に白い土蔵と小社が見えて、そ
の脇には一里塚跡の石が建つ。あ
たりには古い家並みが続く。



高い丘は、横
赤い鳥居を
上には浅間神
つ。



20 かなくぼしんじや
金窪神社
児玉郡上里町金久保
国道17号を過ぎて約900mほどで
右手に見えてくる。毎年10月に奉
納される獅子舞は、「雨乞い獅子」
としてよく知られている。



21 かなくぼしやうしこうえん
金窪城址公園
児玉郡上里町金久保
右手奥の城址公園には「史蹟 金
窪館跡」の石碑が建つ。この館は、
神流川合戦で滝川軍によって焼け
落ちたという。

22 陽雲寺
賀美公民館

20 金窪神社

21 金窪城址公園

上里ゴルフ場

上里町

上里町コミュニティ
センター
上里町郷土資料館 **19**
上里町役場

安盛寺

上里北中

金久保

上里町神保原

神保原一丁目

神保原小

法西寺

薫神社



24 大光寺

見玉郡上里町勅使河原

本堂への参道を行くと左手には、文化12年(1815)、本庄宿の戸谷半兵衛が神流川を越す旅人のために建立した見透燈籠が移築されている。

大日堂

雷電宮

大光寺

丹生大明神

JR高崎線

中山道まめ知識

渡し船と旅人の安全を見守りつづけた神流川常夜燈

神流川の流れはよく変わるため、その度に橋や渡船場の位置が変わった。昼間でも道筋が判りにくいため、川の兩岸に目印として見透灯籠と呼ばれる常夜燈を設けた。その建立には募金も使われ、俳人の小林一茶も寄付している。



高崎市

勅使河原

中山道 23 一里塚跡

神流川橋

25 神流川古戦場跡碑

自衛隊前

陸上自衛隊新町駐屯地

至高崎

群馬県 埼玉県



支菰路ノ駅 本庄宿 神流川渡場

湊斎英泉画。現在の埼玉・勅使河原から橋を渡り上州新町宿まで向かう参勤交代の大名行列。



25 神流川古戦場跡碑

群馬県高崎市

神流川は埼玉と群馬の県境線。この河川敷は、天正10年(1582)に滝川一益と北条氏直が川を隔てて戦った古戦場であると伝えられる。



神流川渡船場跡



0 100 200 300 400 500m



22 陽雲寺

見玉郡上里町金久保

天文9年(1540)創建。武田信玄の妻である陽雲院の菩提寺として知られ、多数の文化財を保管。新田義貞家臣・畑時能供養祠もある。